

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

株式会社東京きらぼしフィナンシャルグループ（証券コード：7173）

【据置】

長期発行体格付	A-
格付の見通し	安定的

株式会社きらぼし銀行（証券コード：-）

【据置】

長期発行体格付	A-
格付の見通し	安定的

■ 格付事由

- 東京きらぼしフィナンシャルグループは、持株会社の傘下にきらぼし銀行や UI 銀行などを擁する地域金融グループ。きらぼし銀行は、東京都に本店を置く地方銀行で、デジタルバンクの UI 銀行を含めた資金量は 5.4 兆円。グループでは、多数の子会社を介し、リース、証券、カード、保証、信託、債権回収、ファンド組成、コンサルティング、フィンテックサービスなどの幅広い事業を展開している。
- グループの中核子会社である、きらぼし銀行について、堅調な貸出業務や経費削減などを通じて高い収益力を確保している。一方、投融資にかかるリスクテイクが積極的な点については慎重に評価する必要がある。中核的な資本水準の向上も課題である。このため、グループ信用力は「A-」相当と JCR はみている。きらぼし銀行の格付は、グループにおける中核的な位置づけなどを踏まえ、グループ信用力と同等としている。持株会社の格付は、ダブルレバレッジ比率が上昇しているものの、その水準が一定の範囲内に抑えられている点や今後の財務運営方針などを踏まえ、構造劣後性を反映していない。
- きらぼし銀行のコア業務純益は 23/3 期第 3 四半期累計で 300 億円と前年同期比 109 億円（57%）の増益となった。子会社配当やアセットスワップ解約益などの特殊要因を除いても増益であり、ROA（コア業務純益ベース）や OHR（コア業務粗利益ベース）などの収益性指標は良好である。メイン化取引の推進やストラクチャード融資を活用して法人向けの貸出残高を伸ばすほか、拠点集約や人員スリム化を通じて経費を削減している。足元、不動産ノンリコースローンやファンドラップ商品などを取り扱う専門部署を新設するほか、ブロック内統括店舗への人員再配置などを進めている。24/3 期以降、賃金引き上げや DX 施策への投資などにより経費は増加するとみられるが、各営業強化策を通じて今後も高い収益力を維持していくことは可能と JCR はみている。
- きらぼし銀行の金融再生法開示債権比率は 22 年 12 月末で 2.6%と業界平均対比で高く、要注意先債権が多いことから分類率も高い。一般に複雑な事業リスクを内包し、かつ与信の大口化を招きやすい LBO ローンなどの債権を多く保有している。与信費用は 23/3 期第 3 四半期累計で 9 億円と少額にとどまるが、原材料価格の上昇など融資先企業を巡る外部環境も考慮すると、今後の動向に注意を要する。市場部門では、国内外の株式や不動産などを投資対象とする投信の価格変動リスク量がやや大きい。外部の投資会社や子会社を通じてプライベート・エクイティ・ファンドへの出資額も増やしており、流動性リスクなどに留意する必要がある。
- グループ連結のコア資本比率は 22 年 12 月末で 8.1%と長期的に緩やかな低下傾向にある。貸出増などに伴うリスクアセットの拡大が資本水準を押し下げている。JCR では、コア資本に含まれる優先株の一部について、一斉取得日までの返済の意思などを踏まえ、その資本性を限定的に評価している。優先株などの評価に

調整を加えたコア資本比率は A-の地域銀行のなかでは低い。内部留保の蓄積速度が向上している一方、リスクアセットが比較的早いペースで拡大しているため、今後の資本水準に注目していく。

(担当) 加藤 厚・木谷 道哉

■ 格付対象

発行体：株式会社東京きらぼしフィナンシャルグループ

【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	A-	安定的

発行体：株式会社きらぼし銀行

【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	A-	安定的

格付提供方針等に基づくその他開示事項

- 信用格付を付与した年月日：2023年3月30日
- 信用格付の付与について代表して責任を有する者：宮尾 知浩
主任格付アナリスト：加藤 厚
- 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」（2014年1月6日）として掲載している。
- 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」（2014年11月7日）、「銀行等」（2021年10月1日）、「金融グループの持株会社および傘下会社の格付方法」（2022年9月1日）として掲載している。
- 格付関係者：
(発行体・債務者等) 株式会社東京きらぼしフィナンシャルグループ
株式会社きらぼし銀行
- 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
- 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
- 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
- 格付関係者による関与：
本件信用格付の付与にかかる手続には格付関係者が関与した。
- JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

■ 留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であると問わず、当該情報の正確性、結果的正確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であると問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手



数料をいただいております。JCR の格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCR が保有しています。JCR の格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCR に無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO 登録状況

JCR は、米国証券取引委員会の定める NRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の 5 つの信用格付クラスのうち、以下の 4 クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則 17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示は JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL : 03-3544-7013 FAX : 03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官 (格付) 第 1 号

〒104-0061 東京都中央区銀座 5-15-8 時事通信ビル